

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3670101447 | | |
| 法人名 | 医療法人 清和会 | | |
| 事業所名 | グループホーム かがやき | | |
| 所在地 | 徳島市上八万町中山83番地の1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年6月20日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip_infomationPublic.do?JCD=3670101447&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年7月9日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は緑に囲まれた自然豊かな環境に位置している。心が休まる環境の中で温かく笑顔あふれる生活が送れるよう支援している。毎日のレクリエーションは利用者の生きがいにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から山側に少し上がった高台にあり、同一法人の老人保健施設に隣接して建てられている。木々の緑に囲まれた静かな環境にある。地域との交流を大切にしており、行事の案内を行うなどの働きかけを行っている。同一法人の各事業所や協力医療機関との緊密な連携のもとで健康管理を行っており、緊急時の協力体制も整備されているため、利用者と家族の安心が得られている。利用者は、レクリエーションのときには他のユニット間を自由に移動しており、穏やかで和やかな時間を過ごされている。職員は「皆んな 楽しく ほがらかに」をモットーとして日ごろの支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|---|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------------|-----|--|--|---|---|
| | | | ユニット 1 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念 3670101447 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所独自の理念を掲げている。プラン検討時には実践方法について職員間で話し合っている。 | 職員間で話し合い、地域密着型サービスを提供する事業所独自の理念をつくっている。職員間で共有し実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域のお祭りや文化祭に参加している。また、近隣の小学校の運動会に参加し、子どもと一緒に応援をするなど地域との交流を図っている。 | 公民館や小学校の行事に参加するなど、地域との交流を大切にしている。近隣住民に行事への参加を呼びかけている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議を通して地域の方と話し合いを行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 日ごろの業務状況や評価について、報告している。改善状況を参加者と話し合い、感想や意見をもらっている。 | 2か月に1回開催している。家族の参加に配慮し、参加しやすい土曜日に開催している。毎回、地域包括支援センターの職員の参加がある。行事の実施報告や運営報告、評価報告、研修報告等を行っている。参加者間で意見交換を行い、出された意見や要望をサービスの質の向上に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 困ったことや疑問点を市担当者に相談し、説明やアドバイスをもらって解決に繋げている。 | 書類の提出時や介護認定申請等の際、窓口で直接相談している。また、電話での説明やアドバイスも受けている。最近では、スプリンクラー設置についての規定や補助金に関する説明を受け、連携を図りながら取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | マニュアルや資料を整備して職員に周知している。また、原則として身体拘束は行っていない。家族の理解を得て施錠を行っているが、状況に合わせて開放し自由に入出りできるように工夫している。 | 管理者と職員は、身体拘束の内容とその弊害を理解しているが、防犯と安全確保のため家族の理解を得て、1階と3階の入り口を施錠している。管理者の状況判断により、開放時間を設けるように努めている。 | 今後も関係者間で検討を重ね、抑圧感のない自由な暮らしを支援できるよう、さらなる努力を期待する。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会やミーティング時に高齢者虐待防止関連法について理解を深め、虐待行為の防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | ユニット 1 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 実際に権利擁護に関する制度を活用している利用者がいる。必要な時に支援できる体制を整えている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 説明手順にそって契約時に十分な説明を行い、理解と納得を得るよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議で意見や要望を聞いている。また日ごろから利用者や家族の意見を聞くよう努めている。 | 運営推進会議や家族会を開催している。また、意見箱の設置や面会時等に意見や要望を引き出せるように積極的に関わっている。事業所内外の相談窓口についても明示しており、出された意見や要望を運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 勉強会やミーティング時に、職員の意見を聞いている。また、日ごろから職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。 | 管理者と職員は、日ごろから話しやすい関係を築いている。また、月1回業務改善に向けた話し合いの機会を設けており、出された意見は月2回開催される主任会議で検討され、運営に反映されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 責任者は頻りに現場に来て、職員の勤務状況や変化を把握している。職員の意向を重視して資格取得に向けた支援を行い、能力に応じた定期昇給を取り入れている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の段階に応じて順番に研修に参加できるようにしている。研修報告書は全職員が閲覧できるようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内の各部署と交流したり、グループホーム協会徳島県支部の相互評価事業に参加してサービスの質の向上に活かしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | ユニット 1 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居希望者と面談し、本人の希望や要望を聞くようにしている。家族が安心できるよう話を聞き、十分な説明を行っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 本人や家族が何を求めているのかを理解し、事業所が対応できるサービスを説明し、信頼関係を築けるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 家族から困っていることや不安なことを聞き、必要なサービスにつなげられるよう話し合っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者は人生の先輩であるという考えを忘れずに接している。わからないことを教えてもらうなど、支え合いながらお互いに良い関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ケアについて悩んだ時は、家族の意向を聞いたり助言してもらい、本人を支えていく協力関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの美容院の利用や墓参りなどへの外出を支援している。また、友人の来訪時にはゆっくり話ができるよう配慮している。 | 美容院の利用やお墓参りなど、馴染みの場所への外出支援をするとともに、手紙や電話、来訪者との交流支援も大切にしている。家族にはいつでも出入りできるように開錠方法が伝えられている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個別にゆっくりと話を聞いたりレクリエーションを行って、利用者同士の交流を図っている。利用者同士のトラブルが生じたときには職員が仲裁をしたり、関係が円滑になるよう働きかけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | ユニット 1 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院で退居となった利用者のお見舞いに行き、話を聞き、不安を最小限に食い止めるよう心のケアに努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日ごろの暮らしのなかで利用者の言葉や表情などから意向の把握に努めている。また、家族から情報を得るようにしている。 | 利用者一人ひとりの担当者を決め、日ごろの発語や表情、態度等から思いや意向の把握に努めている。家族や関係者からも情報を得て、職員間で共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 聞き取りで得た情報のほか、それぞれの生活の場面において、利用者の感じ方や対処の仕方を理解するように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者一人ひとりの生活リズムや、できることできないこと、毎日の状態を把握している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族の来訪時やサービス担当者会議に参加してもらったときに意見を聞いている。日常生活のなかで利用者の意見を聞き、全職員で意見交換を行って介護計画を作成している。 | 毎月ケアカンファレンスを開催している。家族も交えて担当者会議を開催しており、出された意見に考慮し介護計画を作成している。参加できない家族には、事前に電話や面会時に意向の確認をしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者の状態や職員の気づきを個々のケア記録や申し送りノートに記載し、職員間で情報を共有している。記録をもとに、介護計画の見直しや評価を行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 法人内の他部署と連携している。また、他事業所と連携し、業務改善などにも柔軟に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | ユニット 1 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域包括支援センターやボランティア団体と協働している。また、消防署や銀行などの連携を図っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 同一法人の病院と連携し、利用者や家族の希望を大切に受診を支援している。他の医療機関の受診も柔軟に対応している。 | 協力医療機関と連携を図っているが、特殊な診療科については、受診介助や送迎を含めて家族と相談しながら、希望する医療機関での受診が円滑に行えるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 協力医療機関との連絡を密に行い、利用者の健康管理を行っている。状態の変化に応じた支援を行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者の入院時には医療機関に介護サマリーを渡して情報を提供している。また、利用者の見舞いに行ったり、関係者と電話で情報を交換している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取りは行っていないが、重度化した場合や終末期のあり方について本人や家族、関係者と十分に話し合っている。 | 重度化した場合や終末期のあり方における事業所の方針については、そのつど関係者間で話し合いを行い対応していくことを最初に説明している。状態変化が見うけられた際は、関係者間で話し合い、全職員で情報共有し支援している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時に備えたマニュアルを整備し、周知徹底を図っている。今後も勉強会を予定している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難マニュアルを整備し、年2回利用者とともに避難訓練を行っている。併設事業所と合同で訓練を実施している。 | 年2回、消防署員の指導のもと避難訓練を実施している。訓練には利用者も加わり、併設事業所と連携を図りながら実施している。法人内での協力体制が整っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | ユニット 1 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシーを損ねる言動のあった職員にはそのつどきちんと注意している。利用者には不快感を与えないように、時には距離をおくことも忘れないよう指導している。 | 利用者本人の思いにそった呼称になるように、職員間で議論を重ねるなど十分に配慮している。気になることや注意すべき言動については、そのつど話し合うことで共通認識を深め、誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 事業所や職員が決めたことを押し付けるのではなく、複数の選択肢を提案して利用者が自分で決める場面をつくっている。また、気持ちの変わりやすい利用者にはそのつど確認し、自己決定を尊重している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの様子を見ながら無理強いないようにしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者の好みを大切にしながら身だしなみの支援を行っている。移動散髪店を利用したり馴染みの美容院へ行ったりできるよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備や片づけを利用者とともに、職員も一緒に同じテーブルで楽しく食事ができるよう配慮している。 | 法人の管理栄養士が献立を作り、職員が利用者の好みにあった味付けや食事形態等を工夫し調理している。利用者と職員は一緒に調理を行い、同じ食事を楽しんでいる。また、年に数回、外食を行っており利用者の楽しみの一つとなっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者一人ひとりの食事量を把握している。飲食物の低下を防ぐために、嗜好品を加えたりお粥やおにぎりなどを用意するなどして工夫している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアの重要性を理解している。毎食後、ケアの準備を行っている。一人ひとりの力に応じた歯磨きの手伝いをしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | ユニット 1 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者の排泄パターンを把握し、さりげない誘導や声かけを行ってトイレで排泄できるよう支援している。 | 排泄チェック表によりパターンを把握し、さりげない誘導を行っている。清潔の保持とトイレでの自立した排泄を支援している。夜間も、一部のポータブル使用者を除いてトイレ誘導の声かけを行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日、体操や散歩などの運動を行っている。また、繊維質のある食材を利用したり個々の状態に合わせた水分補給を行い、自然排便できるように取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 利用者の希望にそった入浴ができない時もあるが、そのつど説明して理解している。後日、希望を優先して入浴できるように配慮している。 | 利用者一人ひとりの要望に応えられる入浴支援体制を構築している。職員は、利用者にとっての入浴が、リラックスしてストレスを発散できる貴重な時間であることを理解して支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。睡眠状況を把握して、安心して休息がとれるように支援している。寝つけない利用者には家族や医師に相談し対応を検討している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の説明書を個別に整理し、受診記録をつけて職員間で情報を共有している。服薬チェックを行い、身体状況に変化があれば医療関係者に報告している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | それぞれの得意分野で一人ひとりに合った役割を担ってもらっている。お願いできそうな仕事をしてもらい、感謝の言葉を伝えるようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 希望や気分に応じて日常的に散歩や日光浴に出かけている。また、ドライブや買い物などの外出を企画している。外出に家族も参加したり、家族と水入らずで出かけたりしている。 | 日常的な散歩や買い物、ドライブ等を計画して定期的実施している。毎日の買い物やドライブ、外出の希望にもできるだけ対応し、どうしても困難な場合には家族に協力を依頼している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | ユニット 1 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理ができない方にも、買い物等でお金を使う場面では、なるべく自分で支払いができるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族や友人に電話しやすい雰囲気づくりをしている。プライバシーに配慮しながら、個別に支援している。希望に応じて手紙や電話の取次ぎを行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | フロアの飾りつけを利用者と一緒に行い、ともに空間づくりをすることで自分の住まいだという意識を高めている。 | 廊下の壁に、利用者のスナップ写真や作品が飾られており、さりげなく季節の飾りもそえられている。食堂兼居間の窓からは木々の緑が眺められ、椅子やテーブル、ソファ、畳の間がある。季節を感じながらテレビを見たり趣味の絵を描いたり、思い思いに過ごせる空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下やリビングに椅子やソファを配置し、仲のよい利用者同士が楽しく語り合ったり、うたた寝をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた日用品や家具、写真を持ち込んでもらっている。必要な品の購入を手伝って、本人が安心して過ごせるような居室づくりを工夫している。 | 居室にはベッドとタンスが備えつけられており、机や椅子、ソファなどの馴染みの家具が持ち込まれている。家族や担当職員が相談に乗りながら、季節に応じて物品の入れ替えをしており、居心地よく過ごせるように工夫している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | わかりにくいところに目印をつけたり、移動経路に障害物が無いよう注意して、環境整備に努めている。 | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|-----|--|--|--|------|
| | | | ユニット2 実践状況 | ユニット3 実践状況 | 実践状況 |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | リビングに理念を掲示している。プラン検討時には実践方法について職員間で話し合っている。 | リビングの見やすい位置に理念を掲示し、共有と実践に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の文化祭や保育園などの運動会に参加し、交流を図っている。 | 日々の散歩や買い物、文化祭への参加を通して地域の方と交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議を通して地域の方と話し合いを行っている。 | 運営推進会議を通して地域の方と話し合いを行っている。 | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 参加者が意見を出しやすい雰囲気づくりに配慮している。出された意見をサービスの質の向上に活かしている。 | 参加者が意見を出しやすい雰囲気づくりに配慮している。出された意見をサービスの質の向上に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 実地指導などを通じて事業所の取り組みを伝えている。また、福祉事務所との連携を密にとっている。 | 実地指導などを通じて事業所の取り組みを伝え、アドバイスをもらっている。また、福祉事務所との連携を密にとっている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の鍵は、利用者が自分で開けて出入りができるようになっている。 | 安全のため、現状では玄関の施錠を行っている。利用者の希望にそってできるだけ玄関を開放している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会やミーティング時に、高齢者虐待防止関連法について理解を深め、虐待行為の防止に努めている。 | マニュアルや資料を利用して周知徹底に努めるとともに、職員間で話し合いの機会を設けている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|-----|--|--|---|------|
| | | | ユニット2 実践状況 | ユニット3 実践状況 | 実践状況 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 法人内で必要な時に支援できる体制を整えて、職員間で話し合っている。 | 制度の利用が必要な方には関係者と具体的に話し合う機会を設けている。弁護士と相談し、必要に応じて活用できるよう体制を整えている。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には時間を取って十分に説明し、納得して同意を得られるようにしている。 | 説明手順にそって契約時に十分な説明を行い、理解と納得を得るよう努めている。 | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の来訪時に意見や要望を聞き、運営に反映している。 | 運営推進会議で、利用者や家族の意見を聞いている。家族の来訪時にも職員から話しかけ、言葉を引き出すよう努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は職員と日ごろからコミュニケーションを図るよう心がけ、ミーティングや勉強会を行って意見や要望を聞いている。 | 意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見を検討し、答えを出している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 責任者は頻繁に現場に来て、職員の勤務状況や変化を把握している。職員の意向を重視して資格取得に向けた支援を行い、能力に応じた定期昇給を取り入れている。 | 責任者は頻繁に現場に来て、職員の勤務状況の把握に努めている。資格取得に向けた支援を行い、給与に反映させている。 | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の段階に応じて順番に研修に参加できるようにしている。研修報告書は全職員が閲覧できるようにしている。 | 法人や事業所内で勉強会を行っている。報告書は閲覧できるようにしている。外部研修参加のための勤務変更や調整を随時行っている。 | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修を通じて職員が個々に同業者と交流を図っている。また、グループホーム協会徳島県支部の相互評価事業に参加し、他事業所と交流している。 | 法人内の各部署との交流やグループホーム協会徳島県支部の相互評価事業へ参加している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|-----|--|---|--|------|
| | | | ユニット2 実践状況 | ユニット3 実践状況 | 実践状況 |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用前に本人や家族と面談し、心身状態や希望、不安なことについて把握するよう努めている。 | 日ごろの会話や行動から利用者の要望を把握し、本人の安心を確保するよう心がけている。 | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | これまでの経験や苦労を傾聴して受けとめ、どのように対応していくか十分に話し合っ信頼関係づくりに努めている。 | 家族が来訪しやすいような雰囲気づくりに努めている。電話での連絡伝達をこまめに行い、信頼関係を構築している。 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時に、本人の状況を確認して改善に向けた支援を提案して、必要なサービスにつなげるようにしている。 | 利用者や家族の要望を聞き、実現できるように努めている。 | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有している。本人の思いを知ることにも努め、和やかに生活できるよう配慮している。 | 利用者一人ひとりの能力を活かせるよう支援し、ともに支え合える関係を築けるよう努めている。 | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 職員は家族の苦労を分かち合い、利用者の情報を共有して協力関係を築いている。 | 家族に日常生活の報告を定期的に行っている。運営推進会議への参加を呼びかけ、協力し合える関係の構築に努めている。 | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの場所へ出かけたり、知人や友人との交流が継続できるよう支援し、利用者一人ひとりの生活習慣を尊重している。 | 馴染みの人が来訪しやすいような雰囲気づくりに努めて、利用者との関係が途切れないよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | みんなで楽しく過ごしたり気の合う者同士で過ごせるよう職員が調整役となって支援している。 | 利用者一人ひとりの能力や性格、生活歴を把握し、ともに支え合いながら生活できるよう努めている。交流の場を設け、馴染みの関係がつかれるよう配慮している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 ユニット2 | 自己評価 ユニット3 | 自己評価 |
|----|------|--|--|--|------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用者に電話をかけた、かけてもらった、りしている。また、事業所に遊びに来てもらうなど継続的な付き合いができるよう心がけている。 | 入院で退居となった利用者のお見舞いに行き、話を聞き、不安を最小限に食い止めよう心のケアに努めている。 | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日ごろの暮らしのなかで利用者の言葉や表情などから意向の把握に努めている。また、家族から情報を得るようにしている。 | 利用者から希望や要望を聞き、ケアプランを作成している。全職員で情報を共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時に、本人や家族から情報を得ている。利用後も家族等から話を聞き、把握に努めている。 | プライバシーなどに配慮しながら本人や家族等から生活歴やこれまでの暮らし方を聞いている。日ごろの生活の中で得た情報を記録している。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者一人ひとりの生活リズムを理解している。できないことより、できることに注目して、その人の全体の把握に努めている。 | 一人ひとりの日々の過ごし方を記録し、生活歴等と照らし合わせて現状の把握に努めている。 | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日常生活の中で本人の意見を聞いている。家族には来訪時に意見を聞くようにしている。出された意見をもとにアセスメントを行っている。全職員でカンファレンスを行って介護計画を作成している。 | 利用者や家族の希望や要望をもとに、全職員で意見を出し合い介護計画に反映させている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 食事や排泄などの身体状況や利用者の状態、職員の気づきをケア記録に記載し、職員間で情報を共有している。また、個別記録をもとに計画の見直しと評価を実施している。 | 専用ファイルに個別記録を記載し、職員間で情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。 | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 自宅に戻る利用者に対して、訪問介護の説明を行っている。医療連携体制を整備し、受診や入院などを支援しており、適切な医療を受けながら継続して利用できるように同一法人の事業所と連携を図っている。 | 利用者や家族の状況や希望をもとに職員間で意見を出し合い、柔軟に対応するよう心がけている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|---|---|--|------|
| | | | ユニット2 実践状況 | ユニット3 実践状況 | 実践状況 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティアや消防署員に行事へ参加してもらい連携を図っている。 | 地域包括支援センターやボランティア団体と協働している。また、消防署や銀行などとの連携を図っている。 | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族の意向を聞き、協力医療機関以外でも受診できるように家族と相談して柔軟に対応している。 | 本人や家族の意向を聞き、協力医療機関以外でも受診できるように家族と相談して柔軟に対応している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 協力医療機関と連携を密にし、日ごろから利用者の健康管理を行っている。状態変化に応じた支援を行っている。 | 毎日の申し送り時以外に、随時相談できる体制を築いている。 | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療機関と情報交換を行っている。家族と回復状況などの情報を交換し、速やかな退院支援に結び付けている。 | 入退院時は病院と密に連携し、情報を共有している。お見舞いに行き、本人の安心の確保に努めている。 | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人や家族と話し合い、夜勤者のいる他ユニットへ居室を変更するなど臨機応変に対応を検討している。 | 重度化した場合や終末期のあり方について、家族会で話し合っている。また、必要に応じて家族や関係者と十分な話し合いの場を設けている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急対応マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。 | マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。応急手当や初期対応の勉強会を予定している。 | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の協力を得て、避難訓練や消火器の使い方の訓練を行っている。マニュアルを整備している。 | 避難マニュアルを整備し、年2回利用者とともに避難訓練を行っている。併設事業所と合同で訓練を実施している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|--|--|--|------|
| | | | ユニット2 実践状況 | ユニット3 実践状況 | 実践状況 |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 勉強会やミーティング時に、職員の意識向上を図り利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。 | プライバシーを守り、人格を尊重した言葉遣いや対応を心がけている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 職員側で決めたことを押し付けることはせず、利用者に合わせた声かけをしている。複数の選択肢を提案して、自分で決められるような場面をつくらせている。また意思表示の困難な方には、表情から読み取るよう努めている。 | 思いや希望を表現できる雰囲気づくりに努めている。気持ちの変わりやすい利用者にはそのつど確認し、自己決定を尊重している。 | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調や気持ちを尊重し柔軟に対応している。 | 希望に応じた支援を心がけ、気分転換や趣味活動を支援している。 | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 日ごろからおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。職員が買い物に同行し、好みの衣類などを購入できるよう支援している。 | 服装の乱れをさりげなく直したり、利用者の好みを大切にしている。利用者の個性を尊重し、気持ちを引き立てるように支援している。 | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 畑で農作業を一緒に行い、野菜の収穫を楽しんでいる。利用者の意向で準備や食事は職員と一緒にしていない。 | 職員とともに食材の下準備をし、配膳や片付けを行っている。昼食は利用者と職員が同じテーブルで一緒に食事を摂っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量をチェックし、職員間で情報を共有している。水分補給も必要に応じて行っている。 | 利用者の好みに応じてこまめに水分を摂取してもらうよう努めている。管理栄養士が立てた献立で栄養バランスのとれた食事を提供している。個々に合わせて副食を刻む等工夫している。 | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアの重要性を職員は理解して、声かけや歯磨きの手伝い、義歯洗浄を行っている。 | 毎食後、利用者の力に応じた口腔ケアの支援をしている。就寝前は義歯洗浄を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|---|--|---|------|
| | | | ユニット2 実践状況 | ユニット3 実践状況 | 実践状況 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。体調の変化に注意し、必要な時にはリハビリパンツ等を使用できるよう準備している。 | 排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけを行っている。利用者の力に応じて、トイレ誘導時におむつ交換や清拭を行い、清潔保持に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日、体操や散歩等で体を動かしている。食事や水分摂取量に注意して自然な排便ができるよう取り組んでいる。 | 十分な水分摂取や食事、適度な運動に配慮して便秘予防に取り組んでいる。 | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 職員が一方的に決めず、利用者の希望に合わせた入浴を支援している。仲のよい利用者同士と一緒に入浴を楽しめる工夫をしている。入浴を拒む利用者には、職員が同行し安心できるように対応している。 | 一人ひとりの日々の体調を把握し、希望にそえるよう対応している。一人ひとりのペースで入浴を楽しめるよう配慮している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの生活習慣やリズムを大切にしている。体調変化を把握して、安心して休息がとれるように支援している。夜間巡視時、寝つけない利用者には声かけをするなど対応をしている。 | 一人ひとりの生活習慣に応じた支援を行っている。夜間不眠の方には、日中の過ごし方や適度な休息に配慮している。 | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬ファイルの作成や薬の説明書を個人ごとに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服用時は本人に手渡し、きちんと服用できているか確認している | 一人ひとりの薬を時間帯別に整理し、服薬の支援と確認を行っている。変化があった場合には、協力医療機関の受診や相談を行っている。 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 自分の好きな仕事を役割として担ってもらっている。趣味や買い物などを支援して、嗜好品は利用者が居室で管理している。 | 本人の希望や生活歴をもとに、力に応じた役割を担えるよう支援している。趣味や散歩、定期的な買い物など気分転換が図れるよう支援している。 | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 自由に散歩や日光浴に出かけている。ドライブや買い物を企画して外出を楽しんでいる。家族の協力を得て、外食やドライブ等を計画して実施している。 | 希望にそった散歩や買い物を支援している。家族の協力を得て、外食やドライブ等を計画して実施している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|--|---|--|------|
| | | | ユニット2 実践状況 | ユニット3 実践状況 | 実践状況 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を自己管理することで得られる満足感を大切にしており、利用者には少額のお金を保持してもらっている。自己管理できない方でも買い物時に自分で支払いができるよう支援している。 | 好みの物を購入できるよう支援するなど。一人ひとりの希望や能力に応じた支援を行っている。 | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 事業所外の公衆電話を利用したり、希望に応じて電話や手紙の取次ぎを支援している。他の利用者への配慮も行っている。 | 希望にそって電話や手紙のやり取りができるように家族の協力を得て、利用者の力に応じた支援をしている。携帯電話を所持し、家族と自由に連絡を取り合う利用者もいる。 | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 食器を洗う音や料理をしている匂い、季節感のある献立、リビングの飾り付けを一緒に行って自宅で生活しているという意識を高めてもらう工夫をしている。 | 利用者と職員が協力してフロアの飾り付けをしたり短歌などを作成している。壁には季節感のあるものを掲示している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下やリビングに椅子やソファを配置し、一人で過ごしたり仲のよい利用者同士が話をするなどくつろげるスペースを確保している。 | 気の合う利用者同士が楽しく過ごせるよう、リビングのテーブルや座席、ソファの配置等に配慮している。 | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた品を持ち込んでもらったり、一緒に考えながら新しい品を購入して、自分のスペースをつくっている。 | 使い慣れた家具や仏壇を配置している。カレンダーや好みの作品を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者の状態に合わせて、手すりや浴室、トイレ等の住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。 | トイレや居室等をわかりやすく明示し、自立した生活が送れるよう支援している。手すりを設置したりトイレや浴室をバリアフリーにすることで安全確保に努めている。 | |